

2. 愛知県刈谷市

1-1 市の概要

刈谷市は、愛知県のほぼ中央に位置し、中部圏の中心都市名古屋の20km圏内にある。面積は50.39km²、令和8年2月1日現在での人口は152,633人、世帯数は70,329世帯である。高齢化率は令和3年現在、20.5%と、同時期の愛知県全体での高齢化率（25.5%）と比べ低い水準で推移している。本市が都市の形態をとり始めたのは、天文2年（1533年）に水野忠政が刈谷城を築いてからで、明治時代以降には、明治21年（1888年）に東海道本線が開通し、刈谷駅が設置され、大正3年（1914年）には三河鉄道（現名鉄三河線）が開通するなど、交通の要衝として発展し、地方商業都市としての色合いを強めていった。そして、大正末期に、トヨタ系企業の誘致により近代産業都市としての足がかりを得て、積極的な工業化施策を推進してきた。その後も、高度経済成長とモータリゼーションの進行が相まって、自動車関連産業の集積地として飛躍的な発展を遂げ、リーマン・ショックなどの経済環境の変化に影響を受けつつも、愛知県の経済発展の先駆的役割を果たすとともに、世界をリードする創造的な産業拠点をめざす、愛知県の中核都市として重要な地位を確保している。

1-2 事業の概要

本モデル事業は、刈谷市スマートシティ構想（次頁[参考1](#)参照）に基づき、刈谷市スマートシティ推進協議会（次頁[参考2](#)参照）において、これまで実施してきた各種実証事業や推進協議会の活動を踏まえ、社会実装を見据えた取組を段階的に進めることを目的として実施した。

具体的には、スマートシティの取組を担う会員企業や関係者の関係性強化、これまでに実施した実証プロジェクトの整理・評価、ならびに重点プロジェクトである「刈谷放課後子育てMaaSプロジェクト」に関する検討を実施した。

会員企業間の連携強化に向けては、会員交流会・見学会を通じて、市内フィールドの視察や意見交換、ワークショップ等を実施し、会員企業間の横のつながりを強化するとともに、地域課題や資源に対する理解の共有を図った。

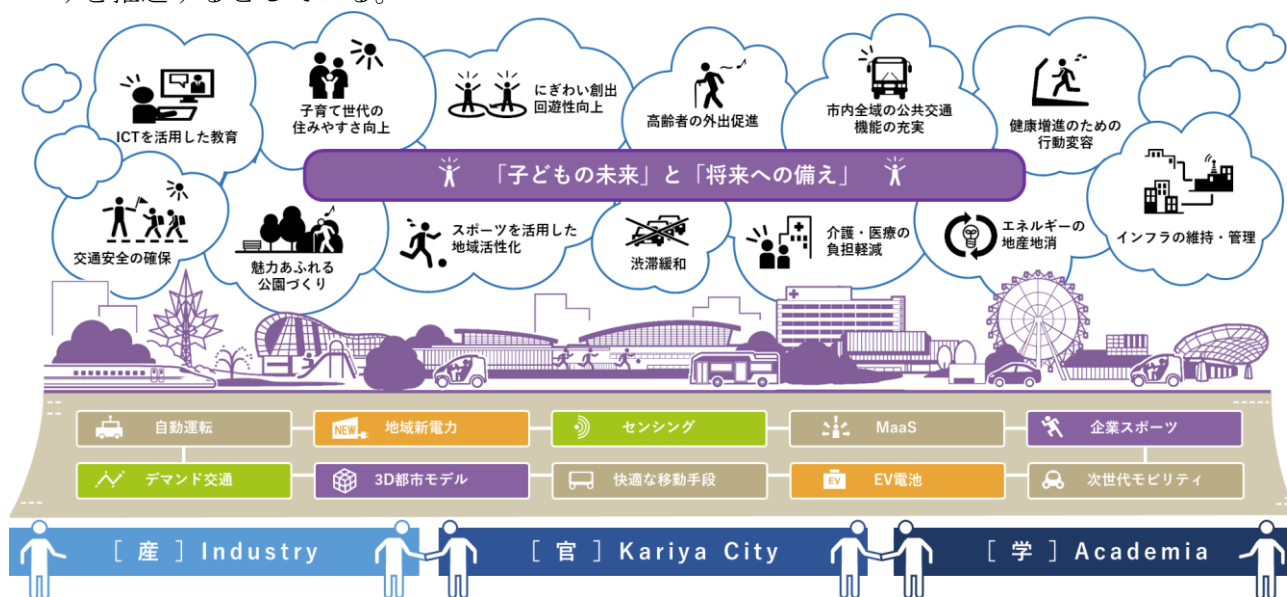
また、過去に実施した実証プロジェクトについては、担当課へのヒアリング等を通じて進捗状況や課題を把握し、今後の取組の方向性を整理した。

さらに、「刈谷放課後子育てMaaSプロジェクト」については、過年度の実証結果やアンケート結果を踏まえ、官民連携による事業スキームや、地域特性を考慮した展開の方向性について検討を行った。

これらの取組を、刈谷市の地域特性や既存施策に精通した専門家である中央コンサルタンツ株式会社の支援を受けながら実施することで、今後の社会実装に向けた検討を進めた。

参考 1：刈谷市スマートシティ構想について

刈谷市スマートシティ構想では『「子どもの未来」と「将来への備え」』を掲げ、産官学で取組みを推進している。



図表：刈谷市スマートシティの取組イメージ（令和5年3月策定）

参考 2：刈谷市スマートシティ推進協議会

2021年7月に愛知県と刈谷市の共同で「刈谷スマートシティ研究会」を立ち上げ、スマートシティの実現に向けた様々なアイデアについて検討を進めてきた。

この研究会をさらに発展させ、地域課題の解決につながるスマートシティの取組を産学官共創で推進していくため、2022年10月に「刈谷市スマートシティ推進協議会」を設立した。設立後は実証実験を行う企業を順次追加し、2026年1月22日時点で計23団体が参加している。

図表：刈谷市スマートシティ推進協議会の推進体制

設立目的	民間企業等との協働の下、ICT等の先端技術を活用して持続可能なまちづくりを目指すスマートシティの取組を推進することを目的
活動内容	(1) スマートシティに関連する情報の共有 (2) 会員間での連携に対する支援 (3) まちづくりにおける課題解決策の検討 (4) 持続可能なまちづくりに資する実証事業の実施 (5) 協議会の活動のプロモーション
協議会会員	株式会社アイシン※、株式会社ジェイテクト※、株式会社デンソー※、トヨタ車体株式会社※、株式会社豊田自動織機※、トヨタ紡織株式会社※、東海旅客鉄道株式会社※、名古屋鉄道株式会社※、NTTドコモビジネス株式会社※、NTT西日本株式会社※、医療法人豊田会※、愛知県※、刈谷市※、中部電力株式会社、東邦ガス株式会社、角文株式会社、刈谷商工会議所、中央コンサルタンツ株式会社、フジ地中情報株式会社、株式会社キャッチネットワーク、MIRAERA株式会社、SpoLive Interactive株式会社、一般社団法人One Smile Foundation 計23団体（2026年1月22日時点） ※刈谷スマートシティ研究会からの参加企業

1-3 事業の構成

本事業は、大きく2つの事業により構成している。次項では、下記の事業内容の（１）～（４）ごとに実施内容を整理する。

図表：本モデル事業の構成

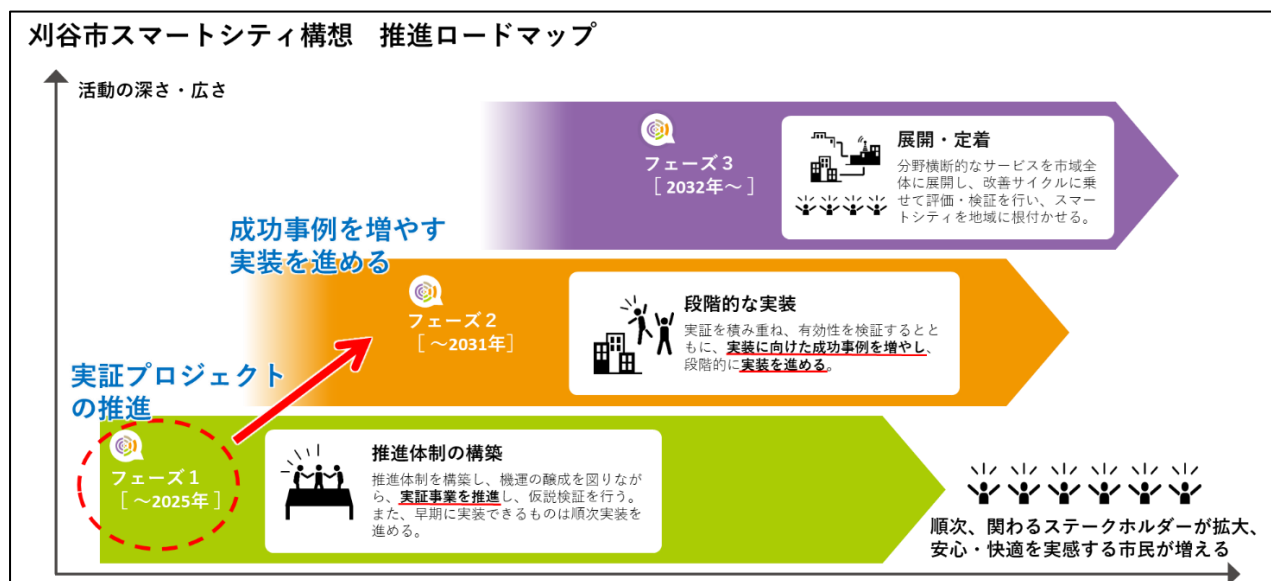
区分	事業	事業内容
事業 1	刈谷市スマートシティ推進協議会の運営	（１）会員企業の活性化支援 （２）実証済プロジェクトの社会実装に向けたフォローアップの支援 （３）推進協議会の運営支援
事業 2	刈谷放課後子育て MaaS プロジェクトの実装化に向けた支援	（４）本格導入に向けた詳細分析・事業スキームの構築等

1-4 事業の実施内容

（１）刈谷市スマートシティ推進協議会会員企業の活性化に向けた支援

これまで刈谷市スマートシティ構想においては、主に実証実験を通じて新技術や新サービスの有効性を検証するフェーズ（フェーズ１）として、23 件の実証プロジェクトを実施してきた。しかしながら、これらのうち社会実装に至ったものは4 件にとどまっており、スマートシティの取組を市民生活への具体的な価値として定着させていくことが課題となっていた。

こうした課題がある中、令和7年度は、刈谷市スマートシティ構想において「成功事例を増やし、実装を進める」フェーズ（フェーズ２）へと移行していく段階としている。このフェーズにおいては、単なる技術の実証ではなく、地域課題やニーズに応じた取組の実施が求められており、スマートシティ推進協議会の会員企業を中心とした、新たな取組みの創出が必要と考えた。



図表：刈谷市スマートシティにおける令和7年度の取組の位置づけ

そこで、会員企業間の連携強化や、今後の取組検討に向けた基盤づくり、連携による新たな取組の創出を目的として、会員企業を対象とした会員交流会と見学会を実施した。特に、会員企業の社員間の関係性構築と、現地視察を通じた地域課題への理解促進を重視することとした。

2回の会員交流会と、1回の見学会を開催し、各回約20名の参加者が、企業の枠を超え、地域課題や中期的なスマート技術の適用等に関する意見交換を行った。

図表：刈谷市スマートシティ推進協議会 会員交流会・見学会の開催概要

回数	日付	参加人数	参加企業	主な内容
第1回会員交流会	8/19 (火)	22名	(株)デンソー、東海旅客鉄道(株)、NTT西日本(株)、(株)キャッチネットワーク、中部電力(株)、角文(株)、中央コンサルタンツ(株)、医療法人豊田会、愛知県	- 参加企業による企業紹介ピッチ - 刈谷の課題・まちでやりたいこと・できそうなことのアイデア出し
第2回会員交流会	10/23 (木)	18名	東海旅客鉄道(株)、NTT西日本(株)、(株)キャッチネットワーク、中部電力(株)、角文(株)、刈谷商工会議所、中央コンサルタンツ(株)、医療法人豊田会、愛知県	- 刈谷市駅周辺のフィールド見学(刈谷市駅前再開発現場、刈谷銀座タワー) - 角文(株)・中部電力(株)による企業ピッチ 「刈谷市民の暮らしに貢献するスマート技術のプロジェクト(案)」をテーマに全体意見交換
見学会	2/3 (火)	23名	東海旅客鉄道(株)、NTT西日本(株)、(株)キャッチネットワーク、中部電力(株)、角文(株)、刈谷商工会議所、中央コンサルタンツ(株)、医療法人豊田会、愛知県(※1)	- AIロボットJullieプロジェクト2.0 - 笑顔が寄付に変わる！共感型まちづくり広告プロジェクト - 刈谷市スポーツファンサイト「Kスポ」 - AIカメラによるスポーツ映像配信 - どこでも誰でもスポーツ観戦を楽しめるユニバーサルデザインなまちの実現

※1：会員企業の他に実証中のプロジェクトに携わる企業も参加



図表：会員交流会の様子



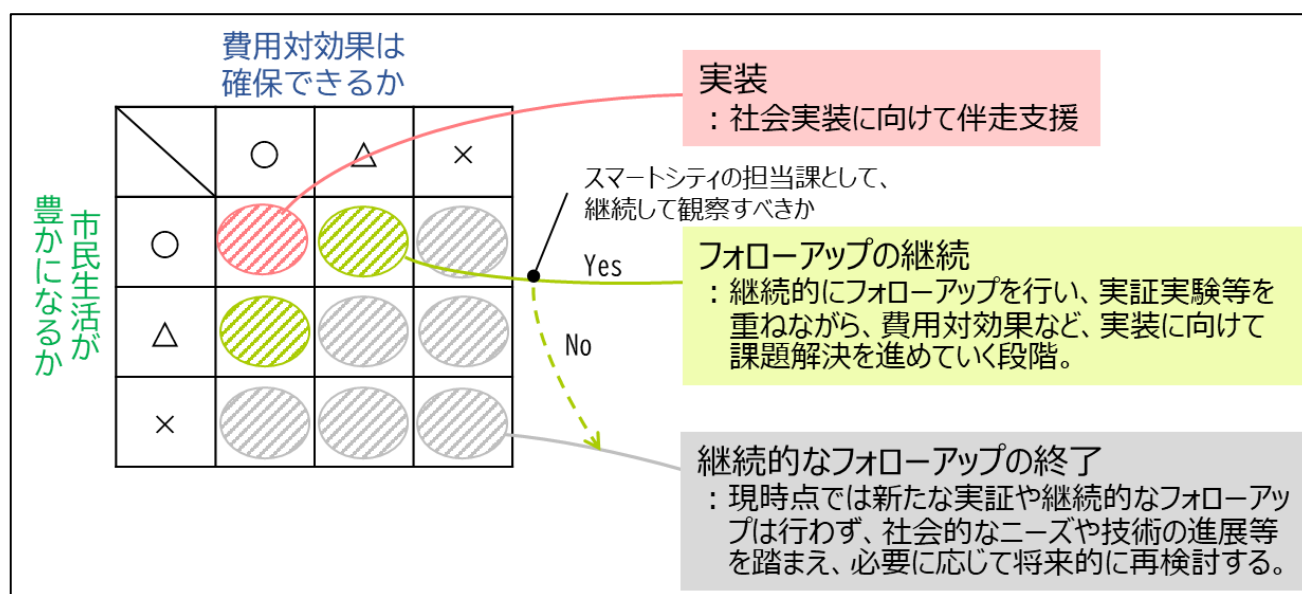
図表：見学会の様子

（２）実証済みプロジェクトの社会実装に向けたフォローアップの支援

刈谷市ではこれまで、刈谷市スマートシティ構想の実現に向け、モビリティ、医療・健康、通信等の多様な分野において、計 23 件の実証プロジェクトを実施してきた。本モデル事業では、これらのうち社会実装に至っていない既存プロジェクトを対象に、今後の取組方針を検討するためのフォローアップ支援を実施した。

具体的には、担当課へのヒアリングを通じて、各プロジェクトの実施状況や課題を整理したほか、各プロジェクトの目的にかかる政策優先度やそれに応じた予算の考え方、当初の政策目的と実証とのギャップなど、実装に向けたボトルネックを把握した。また、ヒアリング結果を踏まえ、国のガイドライン等を参考に、「費用対効果の確保」および「市民生活への貢献（豊かさ）」の 2 つの評価軸を基本とし、「スマートシティの担当課として、継続して観察すべきか」という観点を踏まえ、実証済みプロジェクトの評価を整理した。

これらの整理結果を基に、各プロジェクトについて「実装」「フォローアップの継続」「継続的なフォローアップの終了」の 3 区分による整理を行い、限られたリソースを効果的に活用するための今後の取組方針を検討した。



図表：実証済みプロジェクトのフォローアップの概要

（３）刈谷市スマートシティ推進協議会の運営支援

令和 7 年度刈谷市スマートシティ推進協議会は、令和 7 年 5 月と令和 8 年 3 月（予定）の計 2 回開催した。

具体的には、協議会の開催にあたり、課題解決型実証公募事業の活動への伴走支援として、課題整理やプロジェクトの選定審査などを行った。また、実証事業の成果や課題を踏まえ、報告資料のとりまとめや、次年度以降の取組を見据えた事業スキームや企画内容の検討支援を行った。

これらの運営・企画両面からの伴走支援を通じて、協議会における議論が単なる報告にとどまらず、次の実証や社会実装に向けた具体的な検討へと発展するよう支援した。

以下に開催概要を示す。

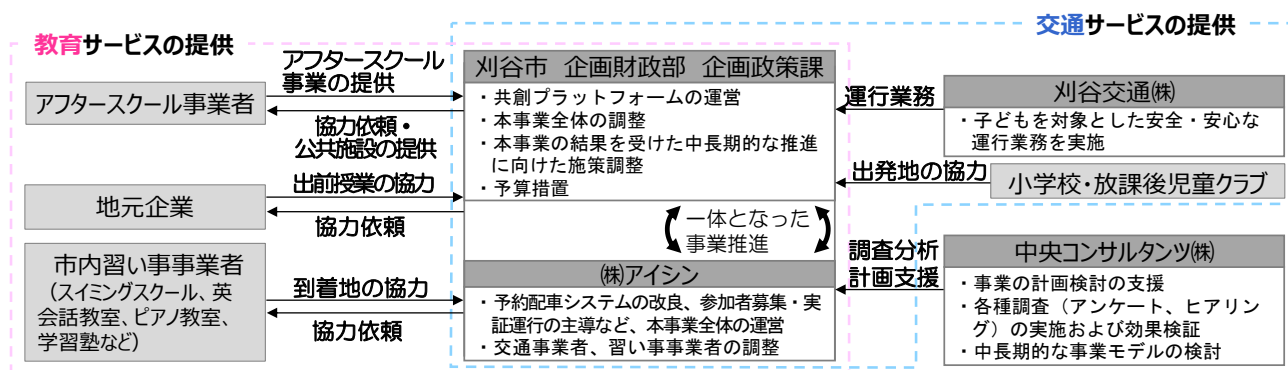
図表：令和7年度刈谷市スマートシティ推進協議会の概要

区分	開催日時	議題
第11回	令和7年5月27日（火） 午後2時～午後4時	（1）令和6年度課題解決型実証プロジェクトの活動報告について （2）令和7年度課題解決型実証プロジェクトの選定結果について （3）令和7年度の活動予定と新たな取組について
第12回	令和8年3月24日（火） 午後2時～午後3時30分（予定）	（1）令和7年度活動報告および課題解決型実証プロジェクトの成果報告について （2）令和8年度活動計画について

（4）刈谷放課後子育て MaaS プロジェクトの実装化に向けた支援

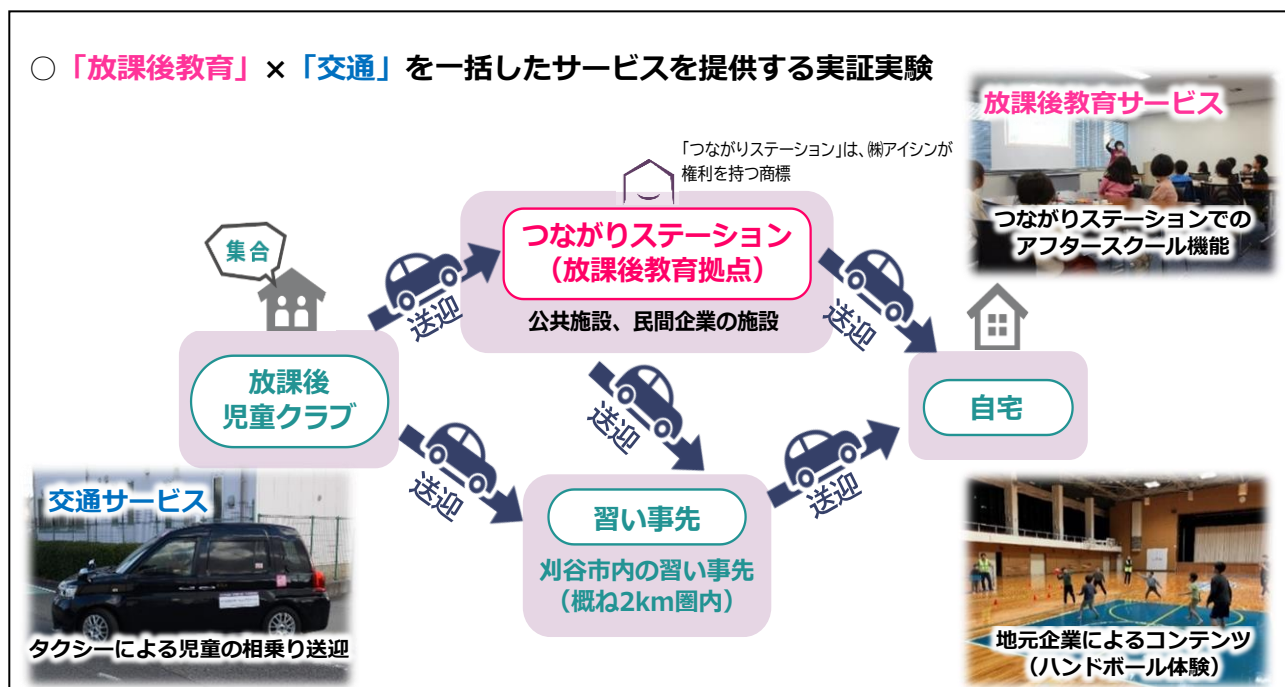
1）プロジェクトの概要

本プロジェクトは、乗り合い送迎サービスのノウハウを持つ㈱アイシンと刈谷市が主体となり、地元のタクシー事業者である刈谷交通㈱と、刈谷市の地域性を熟知した中央コンサルタンツ㈱、アフタースクール事業を展開する㈱名鉄スマイルプラスがプラットフォームを結成し、地元企業、習い事事業者と連携・協働し、小学生の放課後教育（つながりステーション）と交通（子ども相乗りタクシー）の一括したサービスを提供するものである。



図表：刈谷放課後子育て MaaS プロジェクトの実施体制

令和 5～6 年度において、市内の一部地域で実証実験を実施しており、放課後教育サービスについては、アフタースクール機能や地元企業によるコンテンツ（出前事業）を提供し、交通サービスについては、「小学校（放課後児童クラブ）」⇔「つながりステーション」⇔「習い事先」⇔「自宅」の間を結ぶ、相乗りタクシー送迎を提供した。



図表：令和 5～6 年度に実施した実証実験の概要

2) プロジェクトの実装化に向けた検討内容

実証実験に参加した児童は、令和 5 年度は 70 名（無償での実証実験）、令和 6 年度は 27 名（有償での実証実験）であり、本プロジェクトに対して一定のニーズがあることが確認できた。また、実証実験に参加した保護者や児童を対象とした事後アンケート結果より、利用者満足度は非常に高く、保護者の送迎負担の軽減や児童の放課後における教育・体験機会の創出に対して、有用なサービスであることが確認できた。

一方で、本プロジェクトの実装化に向けては、持続可能で官民が連携した事業スキームが必要となり、行政は既存の行政施策との棲み分けや利用機会の公平性を担保し、民間は効率的かつ柔軟な運営を担うといった役割分担が望まれると考えられる。

また、実証実験においては、比較的人口が集積しており、習い事先も多く分布している「中部地域」に限定したサービス提供であったことから、全市的な事業として展開するためには、市内の各地域（北部・中部・南部）において、保護者の送迎・児童の放課後教育の課題に対応した制度設計が求められる。

したがって、本モデル事業においては、①既存施策・方針と整合した庁内連携モデル、②地域ごとの社会実装計画の検討を行った。

1-5 事業の成果と課題

(1) 刈谷市スマートシティ推進協議会会員企業の活性化に向けた支援

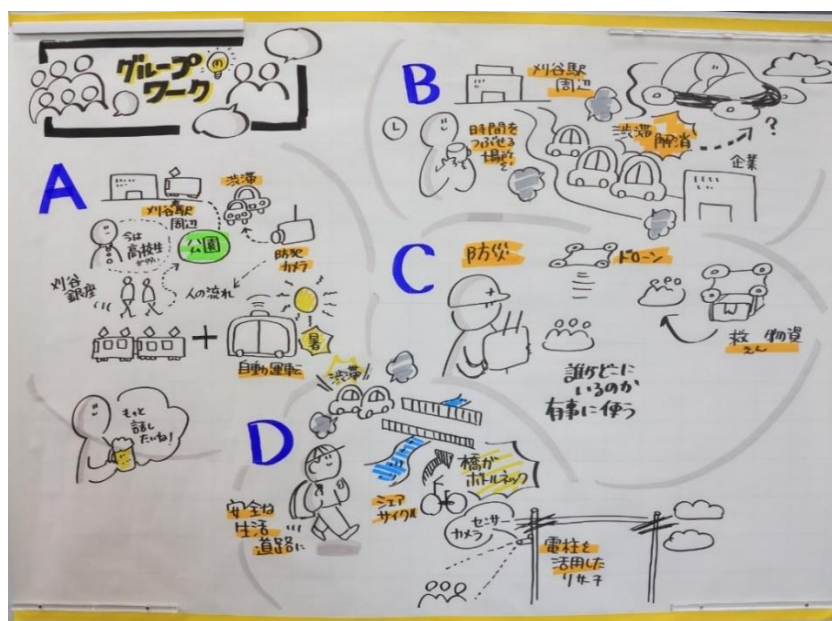
○成果

会員交流会・見学会を通じて、会員企業間の関係性強化と、今後の取組検討に向けた基盤づくりに繋がり得るものとなった。特に、会員企業の社員間の関係性構築の観点では、組織や業種、役職の枠にとらわれないフラットな意見交換が行われ、回を重ねるごとに参加者間の心理的な距離が縮まり、継続的な交流や情報共有が生まれやすい関係性が形成された。

また、刈谷市駅周辺の再開発エリアや市内の実証フィールドを対象に、刈谷市そのものを検討・議論のフィールドとして視察を行ったことで、都市空間の使われ方や人の動き、既存施策や実証事業の状況を同時に把握することができ、刈谷市に固有の課題や可能性について具体的な議論が促された。これにより、「刈谷市で実施する場合に何が課題となるか」「どのような形であれば実装につながるか」といった、地域特性を踏まえた市民目線での検討が進んだ。

さらに、企業紹介やワークショップでは、グラフィックレコーディングを活用し、各社が有する技術やノウハウと地域資源との組み合わせについて多様なアイデアが共有され、今後の実証事業や新たな取組を検討する上での基礎的な視点や論点が蓄積された。

加えて、会員交流会・見学会の場において、国等の補助事業の動向や活用可能な支援制度についても情報提供を行い、実際にプロジェクト化を図る際には、民間企業と市が連携しながら制度を活用して取組を進めていくことが可能であることを共有した。これにより、議論されたアイデアが実装段階へと進む際の具体的な選択肢や実現手法についての理解が深まり、プロジェクトの具体化に向けた現実的な道筋を示すことができた。



図表：第1回グループワークのまとめ（グラフィックレコーディング）

○課題

会員交流会・見学会への参加企業については、偏りが見られる点が課題として挙げられる。特に、自動車関連企業などについては、必ずしも参加が進んでいない状況であった。こうした企業は、企業の規模が大きく、担当部署の決定や社内調整に時間を要する場合が多い。そのため、参加を促すに当たっては、継続的な関与の意義やメリットを明確に示す必要があると考えられる。

また現在、会員交流会や見学会の振り返りと、今後の進め方の改善に活かしていくことを目的に、会員企業に対するアンケート調査を企画中である。調査では参加企業、不参加企業に分けて、下表の設問を予定している。合わせて、今後は会員交流会・見学会の内容や議論のポイントを分かりやすく整理・提示するとともに、今回実施するアンケート調査結果を踏まえ、参加企業および不参加企業双方の意見やニーズを把握した上で、次年度以降のテーマ設定や進め方の改善につなげていくことが課題である。

図表：会員交流会・見学会の事後アンケート調査の設問

問	設問	対象企業	
		参加	不参加
1	ご回答いただいた方の法人名、部署、役職、氏名をご入力ください。	○	○
2	令和7年度に開催した2回の会員交流会と、1回の見学会を振り返って、次の内容の中から該当するもしくは近い項目を選択してください。	○	
3	令和7年度に開催した2回の会員交流会と、1回の見学会を振り返って、次年度の開催に向けて会員交流会や見学会の中の「意見交換」について改善して欲しいことを、次の内容の中から該当するもしくは近い項目を選択してください。	○	
4	令和7年度に開催した2回の会員交流会と、1回の見学会に参加しなかった理由として、次の内容の中から該当するもしくは近い項目を選択してください。		○
5	スマートシティを推進するために、民間企業として参加しやすくなると考えられる条件等をお聞かせください。	○	○
6	スマートシティを推進するために、刈谷市企画政策課へ望むこと等をお聞かせください。	○	○

（２）実証済みプロジェクトの社会実装に向けたフォローアップの支援

○成果

評価対象の既存プロジェクトに対して、担当課へのヒアリングと、ヒアリング結果を踏まえ、前章の評価項目にて評価を行った。評価の結果、実装に至っていない実証プロジェクト全13件の内、「フォローアップ継続」が2件、「継続的なフォローアップ終了」が11件となった。

また、評価結果として「フォローアップ継続」となったもののみでなく、「継続的なフォローアップ終了」としたプロジェクトについても、実装に至らなかった要因やボトルネックを整理し、今後のスマートシティの取組において活用可能な知見として整理した。

さらに、評価軸を明確にした上で継続判定を行ったことにより、実証の継続そのものが目的化することを防ぎ、今後重点的に取り組むべきプロジェクトと、整理・収束を図るべきプロジェクトを区分するための判断材料を整えることができた。これにより、スマートシティの取組を持続的に進めていくための基盤づくりに寄与した。

図表：評価対象のプロジェクトの評価結果

No	プロジェクト名	担当課	実施主体	費用対効果は確保できるか	市民の生活が豊かになるか	継続判定
3	刈谷スマートウェルネスプロジェクト	企画政策課	刈谷豊田総合病院、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、ジェイテクト	△	△	フォロー終了（一部実装）
5	インフラ協調システムの実証（下期）	くらし安心課・都市交通課	デンソー	×	△	フォロー終了
6	バス利用者の移動需要（乗降情報等）の把握	都市交通課	NTTコミュニケーションズ	×	△	フォロー終了
7	水道管漏水の早期発見と予防保全の実現	水道課	フジ地中情報	△	○	フォロー継続
8	刈谷ハイウェイオアシス駐車場のスムーズな利用	公園緑地課 公園整備課	NTTコミュニケーションズ	△	△	フォロー終了
10	刈谷スマートウェルネスプロジェクト2023	企画政策課	NTTコミュニケーションズ、ジェイテクト	△	△	フォロー終了
13	AIによる危険行為検知&注意喚起実証プロジェクト	くらし安心課	西日本電信電話	×	△	フォロー終了
14	大人世代がデジタルで見直す交通安全「おとな安全チャレンジ」	くらし安心課	アイシン	△	○	フォロー終了
15	キッズガーディアンプロジェクト	子ども課	トヨタ車体	△	○	フォロー終了
16	オートフォトプロジェクト	子ども課	トヨタ車体	△	△	フォロー終了
17	かりまるの運行状況が視える気が利くバス停プロジェクト	都市交通課	キャッチネットワーク	×	△	フォロー終了
19	刈谷スマートウェルネスプロジェクト（救急車5G 映像伝送）	企画政策課	NTTコミュニケーションズ、刈谷豊田総合病院、刈谷消防署	△	○	フォロー継続
20	次元を超えたまちデザイン「メタかりチャレンジ」	企画政策課	アイシン	×	×	フォロー終了

○課題

社会実装に至っていないプロジェクトについては、プロジェクトごとに抱える課題が多様であることが確認された。具体的には、技術面における精度や安定性の課題が残るものや、実証実験自体が目的化し、当初想定していた政策目的と必ずしも合致していないケースなどが見られた。

今後は、実証段階で得られた知見を踏まえ、より早期の段階から政策課題や目的を明確にした上で、社会実装を見据えた検討プロセスを組み込んでいくことが課題である。また、「フォローアップ継続」と判定した2件のプロジェクトについては、社会実装に

向け、課題解決に向けた支援や関係者間の調整を継続的に行うなど、継続的なフォローアップを通じて、実装に向けて取り組みを進めていく必要がある。

(3) 刈谷市スマートシティ推進協議会の運営支援

○成果

第 11 回刈谷市スマートシティ推進協議会では、令和 6 年度課題解決型実証プロジェクト（刈谷市の関係部署が抱える課題に対して、解決したい事業者を募り、関係部署と連携した取組んだ実証実験事業）の活動報告について、実際の利用者の反応や事業の継続性等に関する質疑応答が交わされ、今後の社会実装に向けた検討課題を得ることができた。なお、第 12 回については令和 8 年 3 月 24 日（火）に開催予定のため、協議結果については今後整理を行う予定である。

また、課題解決型の実証プロジェクトについては、市の HP で募集を行い、担当課より挙げられた 4 課題に対して、全 7 件の応募があった。この内、担当課と事務局の審査員により、一次審査(書類審査)・二次審査(面談)を実施し、評価が高かった 3 提案を選定した。また、選定された 3 プロジェクトについては、随時取組を進めており、そのうち「笑顔が寄付に変わる！共感型まちづくり広告プロジェクト」および「刈谷市スポーツコミュニティの形成によるホームタウンパートナーの情報集約と刈谷キラキラ教室のデジタル化」に関しては、前述の会員交流会・見学会において見学・説明を実施したほか、3 つの実施主体ともに刈谷市スマートシティ推進協議会の会員となっている。

図表：募集した課題と選定したプロジェクト

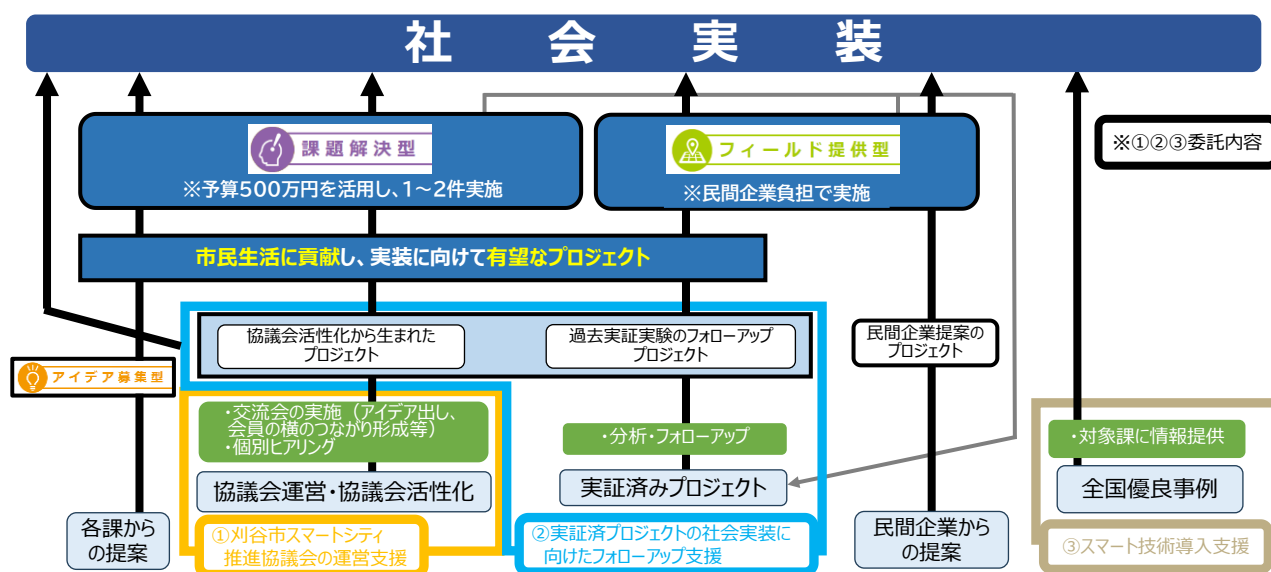
募集課題名 【担当課】	課題解決の目的	選定プロジェクト名 【提案事業者】
働く世代の睡眠習慣の改善 【健康推進課】	従業員の睡眠状況の把握と分析から、事業所への労働環境改善のアドバイスまで実施することで、心身ともに健康な市民の増加と、健康づくりに取り組む優良事業所の認定件数の増加につなげたい。	スマートスリープ 2025～働き世代の睡眠改革へ向けた第一歩～ 【MIRAERA 株式会社】
誰もが足を止めたくなる駅前空間の創出 【まちづくり推進課】	目を引くビジョン、音響コンテンツ、空間演出など効果的なサービス提供により、市民サービス向上とにぎわいの創出を図りたい。	笑顔が寄付に変わる！共感型まちづくり広告プロジェクト 【一般社団法人 One Smile Foundation】
デジタルが導くホームタウンパートナーの認知度向上 【スポーツ課】	ホームタウンパートナーとなっている企業スポーツチーム（8 種目 11 チーム）の認知度を高め、接点や観戦のきっかけを増やすことで、市民の「みるスポーツ」や、継続的に「するスポーツ」の機会増加につなげたい。	刈谷市スポーツコミュニティの形成によるホームタウンパートナーの情報集約と、刈谷キラキラ教室のデジタル化 【SpoLive Interactive 株式会社】
デジタルがつなぐ子どもの居場所づくり 【子育て推進課】	市内の小中高校生が、匿名で気軽に交流できる新たな場をつくり、誰にも相談できない・悩みを話せない子どもの減少や不安や悩みを抱える子どもの減少につなげたい。	※提案なし

○課題

従来の形式での課題解決型の実証プロジェクトは、庁内から課題を募集し、市の課題に対して、民間からの提案によりプロジェクトを実証するというものである。しかし、この課題解決型では、①単年度期間内に実証実験を行うことが目的化すること、②戦略的な検証・効果分析ができないこと、③ソリューションが前提となっており、市民生活の貢献に乏しいということ、の3点が課題となっている。

これらの整理結果を踏まえ、次年度以降のスマートシティの取組の進め方について再整理を行った。具体的には、従来の形式での課題解決型の実証を単発的に実施するのではなく、市民生活に貢献し、実装に向けて有望なプロジェクトの取組を中心に進めていく方針とした。今年度、課題解決型プロジェクトの評価によって、「実証継続」としたプロジェクトや、刈谷市スマートシティ推進協議会の会員交流会・見学会を通じて検討が進んだ取組の中から、市民生活への貢献が期待され、かつ社会実装に向けて有望と考えられるプロジェクトを抽出し、段階的に実施していくことを想定している。

このような進め方とすることで、会員企業とともに、市民の暮らしに資するプロジェクトの社会実装に向けた取組を着実に進めていくこととする。



図表：令和8年度以降のスマートシティの取組の進め方

（４）刈谷放課後子育て MaaS プロジェクトの実装化に向けた支援

○成果

持続可能で官民が連携した事業スキームの検討にあたっては、放課後児童クラブを管轄する「子育て推進課」および公共交通施策を担う「都市交通課」に対して、各課の既存施策に対する課題や今後の方向性についてのヒアリングを実施した。

ヒアリングの結果、子育て推進課については、共働き世代の増加に伴い放課後児童クラブの登録者数が年々増加しており、特に市中心部の小学校では、今後の見通しから、現状のクラブ数では対応できなくなることが喫緊の課題であることが明らかとなった。

そのため、待機児童対策として、民間児童クラブの認可も含めた放課後児童クラブの拡充や、こどもの居場所づくりを検討していきたい意向があるとのことであった。

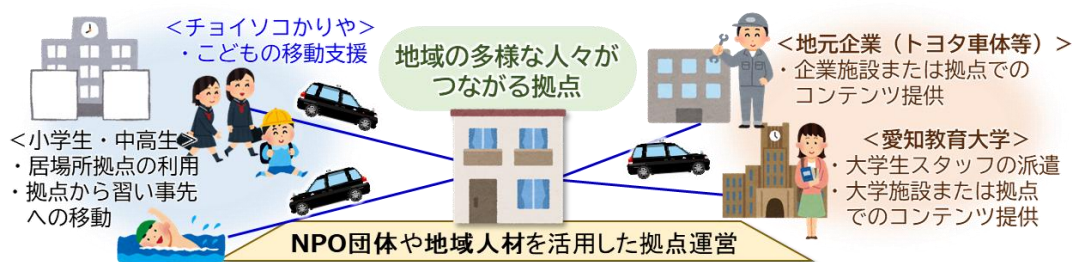
また、都市交通課については、現在、市内の北部地域を対象としたデマンド型交通「チョイソコ※¹かりや」の実証実験を実施しているが、利用者が主に高齢者層となっている。デマンド型交通の付加価値向上策として、保護者の送迎負担の軽減のため子どもの放課後の移動も支援していく意向であり、令和7年10月から運行区域の課題と合わせ、運行時間帯を16時までから17時30分まで拡大した。

〔※1：チョイソコは、外出機会の増加や健康維持・増進にも役立てることを目的とした乗合送迎サービス。㈱アイシンが商標登録を持つ。〕

以上を踏まえ、実証実験で培った地元企業との連携を活かしつつ、「こどもの居場所づくり事業」と「こどもの移動支援」を組み合わせた庁内連携モデル事業を提案した。

北部地域を対象とした庁内連携モデル事業の概要（案）

- こどもにとって、家と学校以外で過ごせる場所の選択肢を増やすことを目的に、北部市民センター内に、“こどもの居場所拠点”を設置する。
- チョイソコかりやを活用し、こどもが自由に移動可能な環境を確保する。
- こどもが自由に過ごせる場所に加え、学習支援や体験の機会を提供する。
- NPO団体や地域人材を活用した拠点運営をベースに、地元企業（トヨタ車体等）や愛教大の参画を図り、地域の多様な人々がつながる拠点を形成する。



図表：北部地域を対象とした庁内連携モデル事業の概要（案）

また、地域ごとの社会実装計画の検討にあたっては、上記のヒアリング結果を踏まえ、地域の特性や想定されるニーズに合わせた事業展開や民間の参画方法を整理した。

まず、放課後児童クラブの登録者数が相対的に増加しており人口密度が高い中部地域では、民間事業者による進出を想定し、次に、デマンド型交通が運行する北部地域で居場所づくり事業と合わせた展開案を検討した。

図表：地域ごとの社会実装計画（案）

対象地域	検討方針（案）
中部地域	市中心部で、放課後児童健全育成事業を適用し、民間の児童クラブの進出を許可し、放課後教育サービス＋移動支援が提供可能な計画（施設整備の関連補助制度を検討）（※民間事業者主体の展開）
北部地域	デマンド型交通の価値向上と北部地域の居場所づくり事業と合わせ、新たな実証実験計画を検討する
市内全域	市内全域で、放課後児童健全育成事業を適用し、民間の児童クラブの進出を許可し、放課後教育サービス＋移動支援が提供可能な計画を検討する



さらに、本プロジェクトが抱える送迎の課題は、全国的にも共通する課題であるとの認識のもと、本プロジェクトで得られた調査結果や知見を、下記に示す学会等で発表した。各会において、全国の交通分野の専門家や実務家との意見交換を行ったところ、教育と交通を掛け合わせたサービスの有用性は高いといった意見のほか、プロジェクトの実装に向けては、地域公共交通の日本版ライドシェアの枠組みの活用や、持続的な協賛金の集め方に関する意見等があった。発表を通じ、交通を専門とする団体に向けて、本プロジェクトをPRする有効な機会となった。

図表：本プロジェクトの発表を行った学会等の概要

学会名、学会誌名	発表名
交通工学 (2024. vol159 No. 4)	【論文投稿、第 28 回交通工学研究会技術賞表彰に係る発表】 刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト
第 72 回土木計画学研究 発表会 秋大会 (対象セッション：子 どもの家庭内送迎と Mobility of Care)	【論文投稿、口頭発表】 放課後教育への送迎実態の基礎的分析と送迎・教育支援サービスの 展開に向けた実務的課題
第 20 回日本モビリテ ィ・マネジメント会議	【ポスター発表】 小学生の「放課後教育拠点」と「子ども送迎タクシー」サービスの 実証実験～刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト 2 年目の取組み～

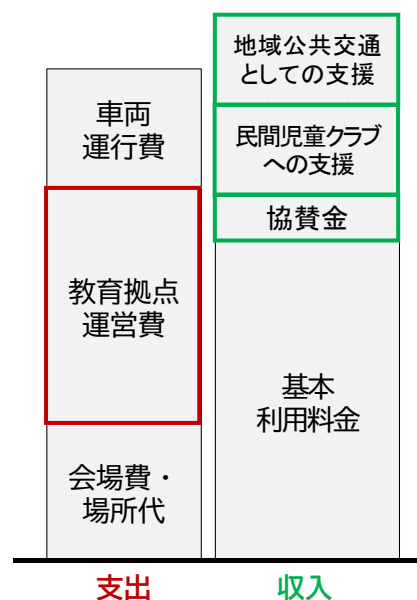
○課題

地域ごとの社会実装計画を本格実装するためには、下記図表の支出・収入の関係性を念頭に、持続可能な事業スキームを構築する必要がある。

支出面については、教育拠点の運営費が大きな割合を占めていることから、民間の放課後教育サービスや地域人材等を活用したサービス等、利用者のニーズに見合ったサービス展開を検討することにより、運営コストを削減することが考えられる。

収入面については、車両運行費に対する地域公共交通としての支援の検討のほか、放課後児童健全育成事業の創設などにより、民間事業者が補助事業を活用しながら児童クラブを運営することが考えられる。

また、本プロジェクトが目指す「子どもが自由に移動でき、多様な経験ができる放課後の姿」を提示していくことで、市内企業の社会貢献事業として協賛が得られる可能性があることから、参画いただける事業者を発掘していくことが課題となる。



図表：本プロジェクトの事業収支の構成

1-6 今後の展望

(1) 会員企業との共創によるスマートシティの取組の深化

本モデル事業を通じて、会員交流会・見学会は、単なる情報共有の場にとどまらず、会員企業間の関係性を醸成し、刈谷市をフィールドとした新たな取組の検討を促す有効な場であることが確認された。今後も、今回の取組をきっかけとして、会員交流会・見学会を改善・継続的に実施し、会員企業発信による新たなプロジェクトの創出を目指して取り組んでいく。

特に、会員企業の多様な立場の社員が交流することで、企業の枠を超えた柔軟な発想や、市民目線に立った課題設定が促されることから、得られた議論やアイデアを整理・発展させ、実証や社会実装につながるプロジェクトへと段階的に展開していくことが重要である。

今後は、会員交流会・見学会を「プロジェクト共創の入口」と位置づけ、協議会での議論や既存プロジェクトの評価結果とも連動させながら、市民の暮らしの向上に資する取組を継続的に創出・育成していく。また、その過程において、トヨタグループ企業を含む多様な企業が関わりやすい場となるよう、取組内容や発信、働きかけについても工夫を重ねていく。

(2) 刈谷放課後子育て MaaS プロジェクトの実装化

重点プロジェクトである「刈谷放課後子育て MaaS プロジェクト」については、これまでの実証結果や分析を踏まえ、今後は段階的な社会実装を見据えた取組を進めていく。特に、市中心部においては、放課後児童クラブの待機児童対策や保護者の送迎負担軽減といった喫緊の課題への対応として、子育て推進課が所管となり民間児童クラブの参入を認める制度改善を検討していく。その際に、こども家庭庁をはじめとする国の動向においても、子育て支援や放課後の居場所づくりに関する補助制度や支援メニューが整いつつあることから、こうした制度を適切に活用し、持続可能な事業スキームの構築を検討する。

一方で、本プロジェクトが対象とする課題は市全域に共通するものであり、地域ごとに交通環境や教育・子育て資源の状況が異なることから、画一的な展開ではなく、「北部」「中部」「南部」など地域特性に応じた対応方針を整理した上での実装が求められる。

こうした検討を通じて、刈谷市におけるモデルを確立するとともに、同様の課題を抱える他都市への展開も視野に入れた横展開可能な「刈谷市モデル」の形成を目指していく。